

# 稲沢東高レスリング部誕生



国内のトップ選手が使ったマットで練習に励む部員たち＝愛知県稲沢市の稲沢東高で

## 青春マットにかけろ

愛知県稲沢市の県立稲沢東高校で、県内の公立高校では二十五ぶりにレスリング部が誕生した。高校のレスリング部は、競技人口の伸び悩みや指導者不足のため、全国で減っている。競技として五輪から除外される可能性が取り沙汰される逆風の中、日本レスリング協会（東京）は「底辺の拡大につながる」と歓迎。創部を祝う二十六日の行事に、五輪三連覇を果たした吉田沙保里選手らが駆け付ける。（福本英司）

創部への道のりは、元レスリング選手で国際審判員の肩書を持つ教頭の高木善則さん（五十）が、五年前に赴任したことから始まる。

県内の公立高校で唯一レスリング部のある一宮工業高で二十二年間教えた。赴任後、稲沢東高の生徒に個別指導したことが、競技の下地のない新天地で、ゼロから育成を始めるきっかけになった。

三年前には、一宮工高出身で部の教え子だった奥田賢市朗さん（三十）が稲沢東高の教員に着任。柔道経験があったり、体育の授業でいい動きを見せたりした生徒を誘い、生徒六人と昨年、同好会をつくった。生徒も「仲間を増やしたい」と部への昇格を望み、この四月に夢がかなった。部員は一、二年の男女七

## 全国で減少 部員7人 逆風にタックル

国際オリンピック委員会（IOC）は、二十九日にロシア・サンクトペテルブルクで開く理事会で、レスリングを含む八競技の中から二〇二〇年大会の競技を絞り込む。ここで選に漏れれば五輪競技からの除外が決まる。

### 吉田選手を目標に

## 五輪競技存続 願い届け

「うにして」と直接お願いしたい」と望みを託す。指導する奥田さんもIOC理事会の行方に気をもむ。「自分も大学時代には五輪を目指した。生徒たちも当然、気にしている。みんなで存続を望みたい。創部が注目されるのが、少しでも力になれば」ただ一人の女子部員で一年生の宮西夏希さん（一七）の目標は、吉田選手。「学校に来てくれるので興奮する。部員を増やし、技術を高めた」と意欲を見せた。

人。高校で初めてレスリングと出合った生徒ばかり。中学まで柔道をしていた三年生の友田ケイシ君（一七）は「部になり、頑張った成果が実った。達成感がいっぱい」と話す。全国高等学校体育連盟（高体連）によると、加盟のレスリング部は私学を含め、最近十年で二百十から二百六十前後へ15%以上減った。「最近の創部は全国でも珍しい」と和人参も参加。午前九時半の北根康志事務局長は「生